〔續世繼四波の上の盃〕三月三日曲水宴といふことは、六條殿にて、この殿○藤原師通せさせ給ときこえ侍き、から人のみぎはになみゐて、あうむのさかづきうかべて、もゝの花の宴とてすることを、東三條にて、御堂のおとゞ○藤原道長せさせ給き、そのふるきあとを尋させ給ふなるべし、

〔曾我物語一〕おなじくさかもりの事

たきぐちの三郎、○中略おひのばつざしきよりすゝみ出申けるは、たゞいまのさかづきもさる事にて候へども、あまりにもどかしくおぼへ候、大きなるさかづきをもつて、一づゝ御まはし候へかしと申ければ、たきぐちどのゝおほせこそおもしろけれとて、いとうの次郎かいといふかいをとり出し、此かい日本一二ばんのかいとて、ゐんへ參らせたりしを、くげにはかいを御もちひなき事なれば、ぶけにくださるゝ、太郎がいをばちゝぶにくださる、ひさげ五つぞ入ける、二郎がいをば三郎にくださる、しんすけ給はつて、どいの二郎にとらする、てんじやうをゆるされたるうつは物とて、ひざうしてもちけるを、おりふしかはづの三郎、どいがむこになりてきたりしを、ひきでものにしたりけり、うちはをのれなりに、そとはなしぢにまきて、いそなりにめをさしたり、ひさげ三ぞ入ける、○下略

〔用捨箱下〕太郎次郎

非情の物の魁なるを太郎とよび、それに次を次郎といふ事種々あり、刀に太郎太刀、次郎太刀、盃に太郎貝、次郎螺、○下略

〔愚管鈔六〕一後京極殿○藤原良經は、院もいみじき關白攝政かなと、よに御心にかなひて、よき事したりと、ひしと思召てありけり、○中略中御門京極に、いづくにもまさりたるやうなる家作りたてゝ、山水池水峨々たる事にてめでたくして、元久三年三月十三日とかやに、絶えたる曲水の宴をこなはんとて、鸚鵡杯つくらせなどして、いみじくよの人もまち悅て、松殿の女を北政所にせられ